

「頂いたご縁を大切にしながら挑戦を続け
絶対に頂点に登り詰めてみせます」



(株)頂

代表取締役 高田 玲

KEY WORD

頂

— itadaki —

大学時代から個人事業を始めて、経営の面白さを知ったという高田社長。

その中で、「0から1を生み出すこと」より「1を10にすること」に向いていると考え、その気付きを活かして『頂』を設立した。

事業再生をメインに手掛ける同社の社名に込められているのは

「どんな仕事もありがたく『頂』いていきたい。そしてそのご縁を大事にし、圧倒的なスピードで『頂』点に登り詰めた」という強き思いだ。

青春時代には、サッカーで頂点を目指すことを断念した過去を持つ社長。

ビジネスという新たなフィールドで頂点を目指せることを、何より楽しんでいる。

長い歴史を持つ「こがねちゃん弁当」

▼「こがねちゃん弁当」は元々、食品会社がフランチャイズ展開していたお弁当屋。30年ほど前に母体の会社がお弁当屋の事業から撤退したそうで、母体は食品会社として継続しているものの、「こがねちゃん弁当」の各店舗は個々のオーナーによる経営となっている。

▼「こがねちゃん弁当」としては長い歴史があり、ネームバリューもあるので、これはそのまま活かして、買い取ったお店についてはメニューを見直すなどテコ入れをしました」と高田社長。メニューは大人気のからあげ弁当をはじめ、のり弁当、各種揚げ物・炒め物を使用した弁当、丼物各種、カレー各種など様々なものを用意している。店頭での販売の他、15個以上からは事務所や工場への配達にも対応してくれる。現在お弁当屋のスタッフはパート・アルバイトを含めて3店舗で17名。スタッフがいない時には社長自ら店頭に立つこともあるそうで、社長の事業再生への本気度の高さが窺える。



株式会社 頂

栃木県宇都宮市下川俣町 61-18
URL : <https://zerostart0.com/>

こがねちゃん弁当 宇都宮店

栃木県宇都宮市岩曾町 1396-10

こがねちゃん弁当 西鹿沼店

栃木県鹿沼市西鹿沼町 127-11

こがねちゃん弁当 喜連川店

栃木県さくら市喜連川 4361-2



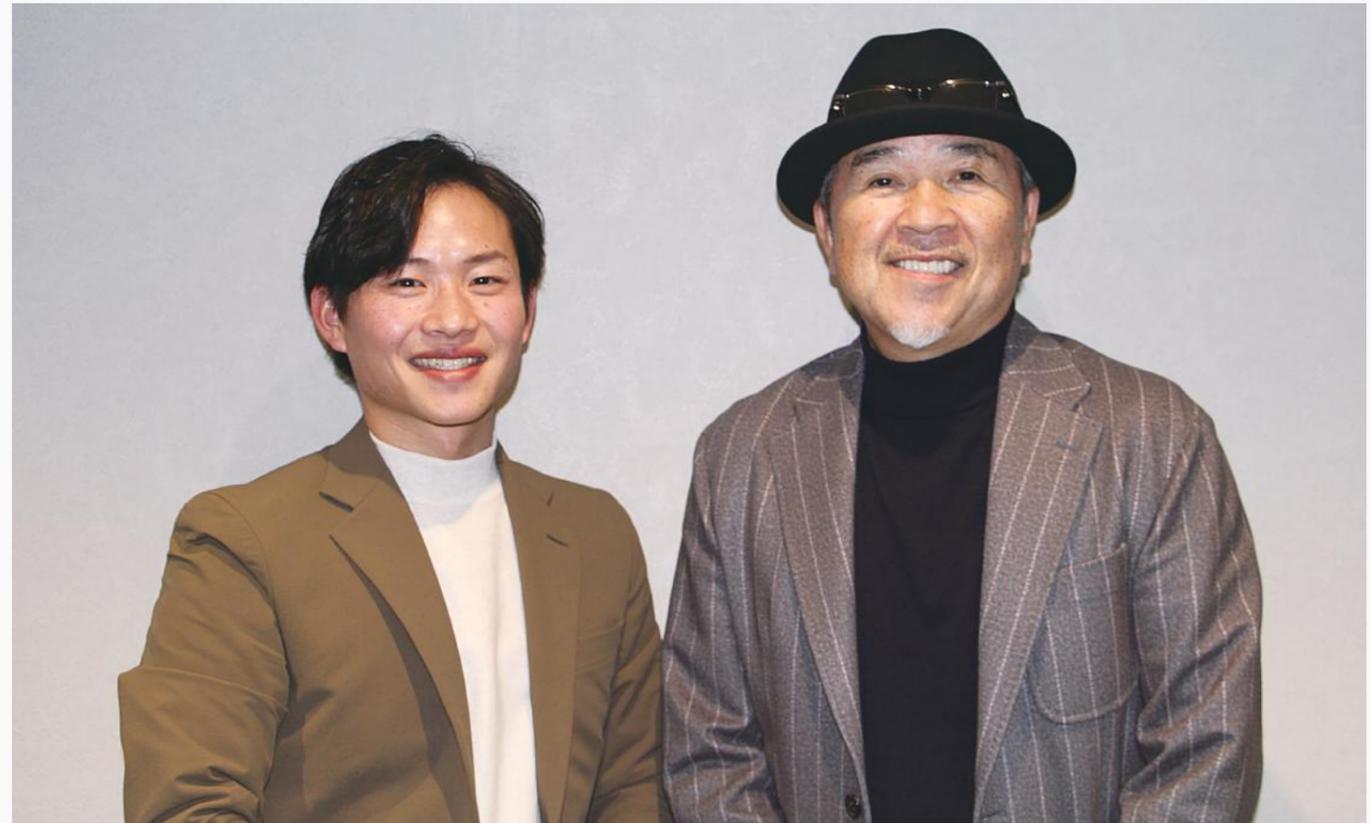
から友人を集めて建築現場に人材を派遣するという仕事を始めました。多い時には60人ほど登録してもらっていて、しっかりと利益も出せるようになっていたんです。就職してから勤めの傍ら続けていたのですが、スタートから4〜5年経ったころにやめました。

—— 大学生のころから経営の才能の片鱗が見られますね。その事業をもっと大きくしようという考えはなかったのですか。

もうすぐインボイス制度が始まるという話も聞いていたので、「今の仕事を本業にしても早い段階で潰れてしまう」と思ったんです。それに登録してくれていたメンバーも皆定職に就いて、人材の確保も難しくなっていましたから。

—— なるほど。それで新たに「頂」さんを立ち上げられたと。奥様の反対などはありませんでしたか。

サラリーマンを辞めたいという話をした時は、会社で1位にならないと辞めさせないと言われたんですよ。「それぐらいの力



先々を見据えた舵取りで邁進し 業界内で頭角を現し始めた運送会社

大学時代から学生起業家として活躍してきた高田社長。その中で培った経営に関わる高いスキルを活かし、2021年に新たに立ち上げたのが『頂』だ。現在は事業再生をメインに手掛けながら、建築・不動産の事業も行っている。2022年にはお弁当屋を買収し、「1を10にするビジネス」に邁進している社長のもとを、本日はタレントのつまみ枝豆氏が訪問。インタビューを行い、その横顔に迫った。

特別対談

(株)頂
代表取締役

高田 玲

×

つまみ枝豆

ゲスト
インタビュアー

—— 高田社長の二経歴から伺います。「ご出身はどちらですか。

—— ここ宇都宮市が地元です。学生時代はずっとサッカーをしていて、プロを目指していました。中学時代はクラブチームで、高校では特待生としてサッカーの強豪校に入学しました。大学も同じく特待生で入学したものの、上には上がいると実感してサッカーで食べていくことは諦めました。大学では教員免許を取れる環境でしたが、それも向いていないと思ってサラリーマンになることにしました。

—— 最初はこういったお仕事からスタートされたのでしょうか。

—— 心電図などを扱う医療機器メーカーに就職して、営業に従事していました。本社は東京でしたが、栃木営業所の勤務だったので地元を離れることもなく、嬉しかったですね。給与は歩合制で、やればやっただけ貰える形でしたが、上司や役員の給料を聞いた時、「自分でやったらもっと稼げるかもしれない」と思いました。それでこちらの会社は2年半で退社して、2021年にこの会社を立ち上げました。

—— 独立すれば、どこまでも上を目指せませうから。お若くしての起業でしたが、元々独立心があったのでしょうか。

—— 実は、大学生だった段階で個人で起業していたことがあるんです。高校生のころに姉の知り合いに建築関係の方がおり、人手が足りないということで、時々手伝いに行っていたんですね。当時はサッカーをやっており継続的にアルバイトをすることができないという中で、練習のない日だけ日給で働いたので、私にはとても都合が良かったんです。その中で建築関係の人たちとの繋がりに恵まれて、大学に入って

量があるなら起業しても大丈夫」という意味だったのでしよう。そして努力を重ね、実際に1位になって退社してからは全力で応援してくれて。今はスタッフのシフト関係も手伝ってくれているんですよ。

—— 大きな支えですね。今、御社で手掛けておられる事業について教えてください。

—— 現在は事業再生をメインに不動産や建築に関わる事業も手掛けています。事業再生については、2022年に「こがねちゃん弁当 西鹿沼店」を買収してお弁当事業に進出しました。その後多店舗展開していきます。現時点では栃木県内で3店舗運営させていただいています。

—— 事業再生に取り組んでいこうと思われたのは何故ですか。

—— 実は大学時代には人材派遣だけではなく、スマホのガラスコーティングやレザーの仕事にも携わっていました。どちらも失敗に終わりました。そういった経験を踏まえて、私は0から1を生み出すビジネスではなく、1を10にするビジネスに向いていると考えたんですよ。そこで、既存の事業を買収してリスタートさせる事業再生の仕事を自分の得意分野に合致していると思ひ、始めたんです。

—— 自身の得意分野で勝負しようということですね。では、御社の理念を教えてください。

—— 当社の社名としている「頂」という言葉には、2通りの意味があるんです。1つは、どんなお仕事も「頂」くこと。もう1つは頂いたご縁を大切にしながら、圧倒的なスピードで「頂」点を目指すこと。それがそのまま当社の理念になっているんです。

—— 頂点を目指す……ですか。威勢が良くて、清々しい思いですよ。是非有言実行し

Guest Comment

「現在、ドーナツ屋さんやカフェレストランなどからも事業承継のお話があるそうで、これから面談を重ねながら買収するかどうかの判断をされるとのこと。今後もどんどん事業が広がっていくので、期待が高まりますね。今後も色々な「1」を「10」にすべく、頑張ってください。私も陰ながらではありますが、応援していますよ！」



—— ていただきたいですね。お話も聞きませんが、最後にこれからの展望をお聞かせいただけますか。

—— まだ始まったばかりの会社です。今は漠然としたことしか言えませんが、まだまだやりたいことはたくさんあるんです。IT関係にも興味がありますし、ホテル事業にも挑戦してみたいです。ホテルについては仕事というよりも、友人を自分のホテルに招待したいという思いがあるんです(笑)。そんな夢に向かうための基盤を作っていくべく、これからも頂いたご縁とスピード感を大事に、頂点を目指していきたい。学生時代に打ち込んでいたサッカーでは頂点に立てませんでした。社会に出た今、ビジネスという新たなフィールドで頂点を目指すことができている。その充実感と喜びを忘れることなく歩んでいきます。

—— 本日はありがとうございました！